

## 渡邊家住宅主屋が国登録有形文化財に登録

19日、杉並区の閑静な住宅街に建つ「荻窪の家」として知られる渡邊家住宅が、国登録有形文化財（建造物）となったことを受け、本日、その登録有形文化財を示すプレートが届けられました。

渡邊家住宅主屋（荻窪4丁目）は、吉村順三設計の木造平屋建で、緩やかな金属板葺きの片流屋根に高窓が設けられて戦後モダニズム住宅の秀作です。建築面積は192.72㎡で、昭和34年3月に建築され、昭和45年・55年・平成26年と三度にわたり改装・修復が加えられなど大切に保護されてきました。

この建物は、現当主の渡邊健介氏の先代の慎介・喜久子夫妻が、家族の暮らしのあり方を反映して設計されました。喜久子さんは、大正10年に、羽仁吉一・もと子夫妻が、キリスト教の考えに基づき創設した「自由学園」で、新しい教育を受けました。そうしたことで、それまでの渡邊家の大黒柱のある住宅で、大家族が暮らす形から、家族が集う大きな暖炉がある空間と家族それぞれが独立した空間を持てる設計となりました。人の集まる場所と家族が休む場所を分けられています。こうした設計を手掛けたのが、吉村順三氏です。吉村順三氏の功績は、豊島区にある記念ギャラリーでも紹介されていますが、帝国ホテルの設計に携わったアントニン・レーモンドに師事し、数多くの作品を残しています。

渡邊家がこの荻窪に、いつ居を構えたかは不明ですが、先々代の義介氏が1300坪ほどの土地を昭和12年9月30日付で購入したことがわかっていて、それ以降に転居したと思われる。義介氏は、新潟県柏崎市出身で、官営製鉄所に勤務し、後に八幡製鉄所の社長を務めました。



19日、国登録有形文化財の登録を示すプレートが、杉並区教育委員会から渡邊家に届けられました。杉並

区は、都心へのアクセスもよく、関東大震災や東京大空襲以降、住宅都市として発展してきました。そのため、大正末期から昭和にかけて、当時の建築技術の粋を使った近代建築物が多数残されています。国登録有形文化財（建造物）としては、東京女子大学の校舎や角川書店の創業者の角川源義氏の邸宅、現在も旅館として経営中の西郊ロジング、さらに個人の邸宅など区内には16件の登録があります。11月29日に、文化庁から登録の発表があったもので、区内では渡邊家住宅主屋のほかに、区立公園となっている旧大田黒家住宅洋館と蔵の2件も登録となりました。

### 【報道機関 問い合わせ先】

教育委員会生涯学習推進課 TEL : 3312-2111 内線 1666